『倫理的転回』

心理療法にもいろいろな種類がありますが、私が学生だった二十数年前は世界に３００種類以上の心理療法があるといわれていました。今はさらに増えてややこしくなっていそうですね。

他流派として相容れなかった学派が、時を越え、お互いの経験、知見を経て結びついたりもします。『認知行動療法』も、もともとは『認知療法』と『行動療法』という別々の理論の心理療法が結びついて生まれたものですし、私が最初に学んだ『来談者中心療法』も、精神分析的心理療法がその原型となっていることは前回お伝えしました。

そのように、私たちは何か一つの価値観が認められると、そこにはおさまらない考えが現れ、また、その考えが多数派、主流になると、今度はその考えに異を唱える人が出て来るという繰り返しになります。反発したり、逆に結びついたりする流れは、ある意味で多様化する社会のバランスを取っているのではないでしょうか。

人間社会が豊かで便利になったように見える裏側で、その社会に馴染めない人、疲弊したり、離脱する人が出てしまうことがあります。

そのような社会の変化始まりについて、１９世紀スペインの哲学者オルテガが『大衆の反逆』という文章のなかで警鐘をならしてから、もう１００年が経ちます。

技術の革新によって生まれたあらゆる利便性は人々の暮らしをどんどん楽にしました。衣食住、水や灯りや寒暖などの問題も自分の能力を超えて**社会**が解決してくれるようになったとき、それまで個人間で相互扶助的に構築してきた社会から、個人個人が社会に対して権利を主張し、享受する方向へと社会は在り方を変えました。

その流れは都市と地方を二極化しました。都市にはその機能の維持とさらなる発展が求められ、そのための労働者が地方から集められます。労働者は同時に消費者として都市の活動を支えます。
この社会の仕組みの変化がヨーロッパで近代化と呼ばれ、やがて世界中に浸透し、爆発的な人口増加につながりました。

この仕組みに支えられた人々をオルテガは『大衆』と呼びました。『大衆』とは、貧富や貴賤も関係なく、何の疑いもなく社会の仕組みに従い、利用する人々です。

この大衆化が、２代、３代と続くと忘恩状態、つまり与えられることに感謝することなく、「得られて当たり前」と感じるようになり、自分の能力、身の丈を超えたことを欲求するようになることをオルテガは指摘しました。

自分に降りかかる問題や不便は誰かが解決、解消してくれることを当然のように当てにして、自身でものを考えることを嫌うというのです。

そんな、わがまま放題な**お子様おとな**の発生を抑えるために、さまざまな教育や法律などが検討されてきましたが、これらもいろいろな主張や解釈が出てしまうので現代社会は議論だらけですよね。

心理療法家の仕事は、さらに、こたえが右往左往することが常です。『倫理的転回』という言葉をご存知でしょうか？もとは哲学や人類学などの言葉です。

『倫理』というと、どの職業にも人としての取り決めがあり、公認心理師にも国家資格者としての倫理綱領、規定が定められていて、その職業倫理について遵守すべき内容が定められています。

また、長年、先輩方が心理療法を実践されてきた歴史のなかからも沢山の取り決めが生まれました。

例えば、患者さんや利用者さんからは「正規の料金以外受け取ってはならない」ことや、私的な関係の付き合いを禁じていたり、我々の態度や服装なども学派や理論によって決まりがあります。これらは、先人たちが数々の失敗や成果からの学びです。

丁寧にかかわったつもりが、依存関係を作り症状を悪化させてしまったり、倫理的に対応したつもりが相手を孤独にさせてしまい死に追いつめてしまったり、人が人を救うことの難しさを、または無理があることを示唆します。

私たち臨床家が直面する『倫理的転回』とは、所属する社会を維持するために「してはならないこと」や「しなくてはならない」という取り決め的な『倫理』から逸脱してしまう考えを持ってしまったり、『倫理』に反する行為行動を取ってしまう相談者に救いを求められたとき、私たちがどのように接することが、その人にとって『倫理的』であるかを再考すること…。
大雑把な説明ですが、そのような『倫理的転回』場面が私たちの仕事には多々あります。

そして、その時々の『倫理的』（と思われる）対応のひとつひとつと、その結果が次の『倫理的転回』へと向かいます。

本山社会保険労務士事務所：発行年月日：2026 年 1 月
杉並区井草 1-2-11-302　03-6427-7751
※筆者は現在、クリニックでカウンセラーをされています。お仕事の関係上、氏名の公表は控えさえていただきます。